

awa アワーproject（徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業）

公募型プロポーザル二次審査

審査委員会による全体総評

まずは、今年5月の公告から約4ヶ月間という限られた期間で、26件という多くの創意工夫を凝らした作品をご提案いただいた全ての事業者の皆様に対して、審査員一同、深く敬意を表したいと思います。

特に、二次審査で技術提案書を提示した5者の事業者においては、一次審査の作品を深く練り込み、さらに魅力的な作品へと昇華させていただけだけでなく、プレゼンテーション及びヒアリングを通じて、それぞれが熱意をもって自らのアイデアの特徴やその実現に向けた提案を示されたことから、審査に向けた準備のために多大な時間と労力を費やされたであろうことは想像に難くありません。そのご尽力に対し、心から感謝いたします。

今回の二次審査において提出された5者の技術提案書とそれに伴う説明は、いずれも要求水準書等において示された基本方針や条件設定などを適切に理解し、それぞれのアプローチによって課題を解決しようとする意欲的なものでした。以下、二次審査での議論のポイントとなった3つの点を中心に、審査員からの総評を示すものとします。

① 街とのつながりを重視しつつ、人を敷地内に呼び込めるホールとしての計画が提案されているかどうか。

徳島の特性に応じた回遊性をもたらす提案、跨線橋を介して連絡する敷地の東西方向の繋がりを意識した提案、ホールと街を繋ぐ大きな通りを設ける提案など、新しいホールが核となり、中心市街地のにぎわい創出につながるまちづくりに向けての具体的な提案があった。

優先交渉権者の提案においては、街とのつながりを意識した上で、敷地全体を公共空間と捉え、ホワイエに様々なキャラクターを設定することで、建物の内へ内へと人を呼び込んでゆく仕掛けが施されている点で、特に高く評価された。

② 新しいホール建築のあり方を予見させるデザインの魅力を有するかどうか。

ホールの四周をホワイエが囲んだ空間利用に加えて、個性が異なるホワイエを多面的に利用していく提案、太陽光パネルの採用によって建築物におけるエネルギー利用のあり方を強く発信できる提案、開閉できる遮音シャッターの設置によってホールを直接屋外と繋ぐ提案など、従来型とは異なる新しいホールのあり方を示す大胆な提案があった。

優先交渉権者の提案においては、これまでのホールのイメージを覆す圧倒的な外観デザインを骨格としつつ、その内部においては、エリアの分節によって多様でコンパクトな部分利用を可能とする場を提供するなど、革新性と現実性が同居する点で、新しいコンセプトと魅力を有しているものとして、特に高く評価された。

③ 豊かな空間（音環境・空気環境）の実現、風や津波などの災害への対策、搬入経路の確保など、機能面・構造面での課題を踏まえた解決策やそれを裏付ける実施体制が整っているかどうか。

各提案とも、それぞれの個性が異なっており、劇場としての機能面や運営面をはじめ、施工面での実現可能性、地震や津波等の災害に対する防災対策を含めて検討されており、リソースをもつ東京から作品を徳島へ持ってきても上演が可能な安定したホールの提案があるなど、全体的なレベルが非常に高かった。

優先交渉権者の提案においては、劇場としての実現可能性や施工等における実施体制に対して懸念があるとの意見があったが、プレゼンテーション審査で指摘された課題を踏まえて、ヒアリング審査の際には、速やかにかつ柔軟に具体の改善提案を示すなど、課題に対する取組意欲とその解決に向けた積極的な姿勢を通して、今後の設計・施工における発注者との対話や協議を通じて、提案内容を確実に実現してゆくことに期待ができる点で評価を受けた。

最後になりますが、これから生まれる未来志向の新しいホールが、徳島県民の皆様が身近に文化芸術に親しむことができる場となり、多くの人々の交流につながる場となることを願いつつ、今後も引き続き、全ての関係者が意欲的に取り組まれることを期待しております。

徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業・
公募型プロポーザル審査委員会

